

# 宮崎市郡医師会病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。いつでも本研究への参加を拒否することが可能です。

研究課題名 (研究番号)	下肢動脈石灰化結節の臨床画像および病理形態学的解析
当院の研究責任者 (所属)	浅田祐士郎 (病理診断科)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	共同研究施設：宮崎大学医学部 病理学講座 山下 篤、解剖学講座 澤口 朗
本研究の目的	<p>足の血管に動脈硬化が起こり、足に十分な血液が流れなくなることで発症する病気を閉塞性動脈硬化症と呼びます。高齢化や糖尿病などによる動脈硬化の広がりによって年々増加してきています。</p> <p>閉塞性動脈硬化症の治療として、内科的にはカテーテルで血管内腔を広げる、ステントを挿入する、などの治療が広く行われています。一方、股関節の屈曲部に相当する部位では、ステントの破綻が起きやすいこと、またこの領域には高度の石灰沈着を伴う動脈硬化巣（石灰化結節と呼びます）の頻度が高く、カテーテルによる内腔拡張が不十分であることが指摘されています。このため当院では石灰化結節の治療として、外科手術による内膜摘除術やカテーテルによる切除術を通常の診療として行っています。</p> <p>石灰化結節は、動脈硬化血管に起きた石灰化巣が破碎されて内腔に突出したもので、しばしば血栓が形成されて血管閉塞を引き起こします。近年、画像診断の進歩により、石灰化結節の報告が増えてきていますが、その病態や臨床画像についてまだ不明な点が多い病気です。</p> <p>本研究では、当院で下肢動脈の内膜摘除術・石灰化結節切除術を受けられた患者様において、臨床所見、血管造影・CT・MRI・エコーなどの画像所見と摘出された病理検体像を評価し、石灰化結節の画像診断および内科的・外科的治療の向上に寄与することを目的とします。</p>
調査データ 該当期間	2015年1月から2023年9月までの期間に当院で下肢動脈内膜摘除術・切除術を受けられた方
研究の方法 (使用する試料等)	診療情報に関するデータ：年齢・性別・身長・体重・合併疾患名、術前に撮影されていた画像：血管造影・CT/MRI画像・エコー図所見、病理組織・電子顕微鏡所見
試料情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	組織標本の染色の一部を宮崎大学医学部病理学講座に、電子顕微鏡画像の撮影を宮崎大学医学部解剖学講座に送付して行う。
個人情報の取り扱い	お名前、住所などの個人を特定する情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌などで公表する際には、個人が特定できないような形で使用させていただきます。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究を行うにあたり、企業や団体からの資金提供はありません。
お問い合わせ先	宮崎市郡医師会病院 心臓病センター 病理診断科 TEL：0985-77-9101 研究責任者： 浅田祐士郎
備考	